

東北の国土は私たちが守っていく



東測協だより

Vol. **7**
2017

北上川
右 - 0.6 K

Contents

- ・会長あいさつ
- ・「風化させない・忘れない」シンポジウム開催
- ・フレッシュさん紹介
- ・委員会活動報告及び活動計画

私達の理念

「東北に根差し、地域に責任を持ち、期待される協会」

完成した北上川右岸堤防（宮城県・石巻市）



一般社団法人 東北測量設計協会

Tohoku Survey & Planning General Inc. Association

会長あいさつ



会長 安孫子 正芳

本協会は昭和60年5月に創立し、平成24年3月に一般社団法人東北測量設計協会として再スタートし、今年で5年目を迎えることができました。

これもひとえに、これまでご指導ご支援くださいました多くの会員皆様方のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

当協会は「東北に根差し、地域に責任を持ち、期待される協会」の理念を掲げ、「東北の国土は私たちが守っていく」というスローガンのもと、会員それぞれが資質と技術の向上を図り、地域コンサルタントとして地元へ貢献できるよう取り組んでおります。

さらに、当協会では、地元ならではの機動力を生かし、当協会会員が一丸となって様々な災害等に備えるとともに、地域コンサルタントとして大きく貢献できるよう初動体制の強化に取り組んでおります。

東日本大震災から6年が経過し、「復興・創生期間」も2年目に入りました。

改めて被災された皆さまと、犠牲になられた方々のご親族の皆さまに対し、心からお見舞いを申し上げますとともに、早期に復興・再生が叶いますように心からお祈り申し上げます。今後とも当協会は、復興期間の「総仕上げ」に向けて、被災地の発展基盤となるインフラの復興事業が着実に進むよう、鋭意努力してまいります。

さて、東北地域における建設産業を取り巻く環境の変化は益々激しくなることが予想されます。会員企業はこの環境の変化に順応可能な経営力強化が求められます。これを協会活動の重点課題として捉え、経営強化に必要な、適正利潤を確保できる入札制度の確立や働き方改革など、労働環境の改善に積極的に取り組んでまいります。また、会員各位におかれましては、コンプライアンスの徹底と経営資質の向上、若手や女性技術者の一層の技術力向上に精進して頂きますようお願い申し上げます。

最後に、発注者及び会員皆様からのご協力に深く感謝を申し上げますとともに、東北地方の更なる発展に寄与すべく、活動と運営を心がけてまいりたいと存じます。今後とも、引き続きのご理解ご協力を賜りますことを重ねてお願い申し上げます。

～東日本大震災から6年～

「風化させない・忘れない」 シンポジウムが開催されました

2017年2月18日（土）、東京都港区虎ノ門にある日本消防会館（ニッショーホール）において“～東日本大震災から6年～「風化させない・忘れない」シンポジウム～”を開催しました。

東日本大震災の発災から7年目を迎え、被災地の復旧・復興は着実に進展していますが、一方で震災の記憶の風化が問題視されています。

本シンポジウムは、東日本大震災の経験と教訓を風化させず、首都圏直下型地震や南海トラフ巨大地震などの全国各地で想定される災害に対し、経験と教訓をどのように活かすかを考えることを目的に開催いたしました。

当日は、会場がほぼ満席となる約700名の参加があり、関心の高さを伺うことができました。

本シンポジウムは、国土交通省東北地方整備局が主体となった、「風化させない・忘れない」シンポジウム実行委員会が主催しています。実行委員会には当協会も参画し、東北の国土交通省関係機関の他、（公社）土木学会東北支部、（一社）日本建設業連合会東北支部、東北建設業協会連合会、（一社）建設コンサルタンツ協会東北支部、（一社）東北地域づくり協会で構成されており、この他にも多くの方々からご後援をいただきました。

会場では、実行委員会構成団体の震災時等の取り組みを紹介するパネル展が同時開催され、多くの方が足を止めてご覧になりました。

－ 開会 ～ 現場からの報告



シンポジウムの開会に当たり、冒頭、東北地方整備局が所有している防災ヘリみちのく号から撮影した津波の映像などの紹介がありました。その後、東北地方整備局長 川瀧弘之氏が主催者挨拶を兼ねて、現場からの報告がありました。

被災直後の啓開や当時の地域支援活動、現在の道路・河川・港湾等の復旧状況、まちづくりの状況などが報告されました。

－ 基調講演

基調講演は、「東日本大震災での教訓を繋ぐー忘却のたたかいー」と題し、東北大学災害科学国際研究所 所長（津波工学分野教授）の今村文彦氏よりご講演をいただきました。



今村氏は、平成28年（2016年）熊本地震を例に、「事前準備の無い対応はできない」、「支援ではなく受援が大切」、「他地域での経験・教訓はなかなか伝わらない」などの課題を挙げ、東日本大震災の主な教訓と対比し、これらがどの程度活かされたかを、今後整理する必要があると述べられました。

防災・減災における教訓とは、「過去の経験の中で、将来や他の地域でも役に立つ知識や知見」と整理され、「東日本大震災以降も多くの自然災害が発生しているが、被害が繰り返されるのは他地域の経験や教訓を自分の事として受け止めていないことが要因。過去の歴史津波などを集め、ストーリー性を持った映像などで後世に伝承していくことが、記憶の忘却を防ぐことに繋がる。」と提言されました。

この他にも、検討中である震災伝承モデルの紹介がありました。“経験”を“知識”として“伝承”し、それを“継続”することで“文化”になるというものです。体系化した経験や知識を伝承するための仕掛けや工夫の検討、他人事ではなく自分事と捉え



会場の様子

るための“共感”を生む工夫など、今後考えて行かなければならないことは少なくありませんが、生活の中に溶け込むレベルまで高めることで文化となり、より普遍的な教訓になると、総括されました。

ーパネルディスカッション

パネルディスカッションは、「東日本大震災を教訓とした防災・減災」をテーマとし、パネリストには被災地から宮城県知事 村井嘉浩 氏と陸前高田市長 戸羽太 氏。南海トラフ巨大地震対策に取り組まれている高知県知事 尾崎正直 氏。防災教育の第一人者である群馬大学 広域首都圏防災研究センター長 片田敏孝 氏。女性あるいは市民目線としてタレントの春香 クリスティーン 氏の5名を迎え、コーディネーターにはTBSのサンデーモーニングなどでコメントーターとして活躍中で、被災地との関わりも深い東京都市大学 特別教授 涌井史郎 氏。アドバイザーに国土交通省技監 森昌文 氏を加え、パネルディスカッションが行われました。



パネリストの方々

○高知県知事 尾崎 正直 氏

・災害対策はケースバイケースで膨大。一つのシナリオにとられ過ぎていけない。

○宮城県知事 村井 嘉浩 氏

・同じ災害が起きても命だけは守るまちづくりや、物流拠点などの重要施設は徹底的に守るということも重要な教訓。

○陸前高田市長 戸羽 太 氏

・風化は自分の事として捉えていないから。自分の命は自分で守るしかないという意識を共有してほしい。

○群馬大学 片田 敏孝 氏

・何よりも逃げる意識を持つことが重要。被災体験に学び、災害に対する教訓が文化として定着するようにしていかなければならない。

○タレント 春香 クリスティーン 氏

・このくらいなら大丈夫という慣れが怖い。
・2020年に東京オリンピック・パラリンピックを控え、多くの外国人が訪れている際に災害が発生するケースも考えておくべき。

○国土交通省技監 森 昌文 氏

・東日本大震災では、道路だけではなく海路・鉄道・空路などの輸送網・輸送手段をフル活用して物資を運んだ。
・これからもネットワーク整備にしっかりと対応していきたい。



コーディネーター（左）とアドバイザー（右）

コーディネーターの涌井氏は、「土木的な対応に加えて、生態系や自然を活用しながら防災・減災に取り組む必要がある。そして災害を克服し次世代に繋いでいく“克災”という考え方（災害を克服する）に立って、取り組むことが重要。」と総括されました。

ーおわりに

東日本大震災の発災から7年目を迎えました。

当時、当協会会員は発災直後から6月30日までの約3.5ヵ月間に、述べ48,000人以上が被害状況調査等の活動に従事していますが、当時の記憶は年々薄れてしまうのが現状で、教訓などを風化させないための取り組みは、今後増々重要になります。

今村氏の基調講演で、「事前準備の無い対応はできない」とありました。東北地方整備局がまとめた東日本大震災の実体験に基づく「災害初動期指揮心得」は、「備えていたことしか、役には立たなかった。備えていただけでは、十分ではなかった。」という冒頭の一文から始まります。

会員の皆さまにおかれましては、改めて東日本大震災の問題点・課題や教訓の整理、社内危機管理体制の点検・確認などを行う機会を設けていただき、改めて備えについて考えていただきますようお願いし、開催報告とします。

写真・記事協力：東北地方整備局
担当：企画委員会（西條 祐樹）



フレッシュさん紹介

昨年度、会員社で新たに社会人となった方々に
1年間過ごして感じたことなどを伺いました。



(株)コサカ技研

技術部所属

木戸 七海 (21)

Q アピールポイントは？

A 確認を行いながら慎重に作業を進めるところです。さらに「確実に」作業出来るように今努力しています。

Q この会社を選んだ理由は？

A 生まれ育った町に貢献したいという気持ちがあったので、地元根付いている印象を受けたこの会社を選びました。

Q 仕事の内容と感想を教えてください。

A 現在は主に交通量調査業務で、調査前準備や調査後のデータ整理をしています。県内の様々な道路環境について新しく知ることばかりで、新鮮な気持ちで業務を進めています。

Q 入社前のイメージと違った点は？

A 息抜き出来る機会が意外と多いと感じました。毎月社内イベントがあり、他部門の方とも交流することが出来るので、忙しい時のリフレッシュになります。毎回楽しみにしています。

Q 今のような技術者になりたいですか。

A 丁寧にご指導くださる先輩方のようにたくさんの知識を付け、引き出しをどんどん増やし、ひとつの仕事を実践にこなしていくことを目標に成長していきたいと思っています。

○上司の方から一言

この1年、初めて経験するものばかりでしたが、仕事に対し真面目な姿勢で取り組み結果を出してくれました。今後は更に技術を習得し、部下ができた時に指導できるように仕事に取り組んで下さい。また、技術者に必要な資格取得にもチャレンジすることを期待します。



興建エンジニアリング(株)

技術部門所属

近藤 隆雅 (20)

Q アピールポイントは？

A 比較的物覚えが良い方だと思っています。

Q この会社を選んだ理由は？

A 測量士補を保有していますので、資格を活かせる仕事に就きたいと思い、ハローワークで仕事を探していたところ、測量が目に入ったのがこの会社です。

Q 仕事の内容と感想を教えてください。

A 洪水吐の配筋図を作成しています。プロジェクトリーダーの指示・指導を受け、既往の成果品（電子データ）の配筋図を参考にしながら行っています。結構上手くできています。

Q この1年働いた感想は？

A CADの使用が面白いです。高校ではありませんでしたので、知らない機能がいろいろあって、新鮮さを感じました。

Q 今後、やってみたいことやどのようなコンサルタント（技術者）になりたいですか。

A 会社では、資格取得を推奨しています。資格取得に力を入れて、みんなから頼られる技術者になれるよう努力したいです。

○上司の方から一言

建設会社勤務を経ての第二新卒として入社ですが、会社で種々の業務に触れさせ、担当部門を選択的に定めて、本人の専門性を伸ばしてあげたいと考えています。また、自らの意識を高めて、どの部門を専門としたいかを早い時期に見定めてほしい。なお、4月からは、先輩になるので、切磋琢磨のうえ、将来ビジョンを描くに叶う企業人に育ててもらいたいものと願っています。



委員会活動報告及び活動計画

企画委員会

主な活動計画（予定）

<大学等連携>

大学等教育機関と連携し、地域コンサルタントの業務、役割を学生等に周知するとともに、新たな担い手の確保を目指し、講座、実習等を実施します。

- 東北工業大学への講師派遣
(測量学・測量実習 9月～3月)
- 八戸工業大学への講師派遣 (7月頃)
- 東北学院大学ジュニアセミナーへの参加 (11月頃)
- 福島工業大学専門学校への講師派遣
(測量、設計等 12月頃)

<人材育成>

若手確保と事業承継があらゆる産業の課題であり、会社規模は異なっても直面する課題は同じです。そこで「次世代セミナー2017」を開催します。同じような悩みを抱える後継者候補や彼らを支える幹部など次世代を担うスタッフの交流を図りながら、底上げを狙う事業を今年度より新たにスタートします。

- 次世代セミナー2017 (第1期生 全3～4回予定)

<広報活動>

- 東測協だより7号(6月)、8号(1月)の発行

補償業務委員会

主な活動計画（予定）

<意見交換等>

- 東北地方整備局用地部用地調整官との懇談会
- (一社)日本補償コンサルタント協会東北支部との意見交換会

<研修・講習会>

- 補償実務講習会
平成29年9月13日 ハーネル仙台にて
- 補償業務管理士講習会
平成30年2月8、9日 ハーネル仙台にて
 - ・オリジナルのテキスト作成でありテキスト検証作業等を事前に数回実施
 - ・補償実務講習会のアンケート調査を実施
 - ・補償業務管理士講習会の受講/受験結果について追跡調査を実施

継続教育対応として講習会は補償CPDのプログラム登録を行う予定ですので、広くご参加いただけますようお願いいたします。



技術委員会

平成28年度事業も無事終了する事が出来ました。これも会員企業の皆様はじめ関係機関の方々のご協力の賜物と感謝申し上げます。唯一悔いが残る事業として、三陸道の現場研修会を企画しておりましたが、台風10号の影響により中止となってしまいました。致しかたない事とは言え、皆様にお詫び申し上げます。

主な活動実績

- UAV連絡会議－UAV技術研修会
平成28年7月21日 CPD：4ポイント
場所：宮城県建設産業会館 78名参加

- UAVを用いた公共測量マニュアルの解説
- UAV事例発表

● 28年度「総合評価・設計ミス事例等対応」講習会

平成28年8月29日 CPD：5.5ポイント

場所：ハーネル仙台 43名参加

- 総合評価の高評価提案書の書き方について
- 設計ミスの事例等について
- 設計等で配慮すべきポイント
- 設計における最近の話題

● 技術士試験基礎対策講習会

平成28年11月10日 CPD：3ポイント

場所：ハーネル仙台 17名参加

● 安全大会

平成29年2月17日

場所：パレスへいあん 全員協議会にて



この他、例年通り「労働災害事事故事例調査」、「会員UAV保有状況調査」。また、秋田河川国道事務所と共催によるi-construction実証実験を10月（道路土工）と11月（河川築堤）に開催し、多くの地元実業高校生や地元発注者、工業者に広く理解していただく事が出来ました。11月には東北インフラマネジメント研究センターとの連携・協力協定を締結。この他にも10号災害によるテックフォースへのUAVによる撮影協力、他団体からの労働災害防止講師派遣、他団体との技術連携等多岐に渡って事業を進めて参りました。

今年度は、昨年度の事業を踏まえて、会員の皆様により良い技術情報の提供に努め、加えて関連団体との共同事業の実施により、業界発展の一助となるよう努力してまいります。

主な活動計画（予定）

- 平成29年度雄物川総合水防演習参加 ー秋田県内会員協力
平成29年5月28日 秋田市茨島地先
- CIM研修会 CIM導入ガイドライン解説
平成29年6月29日（予定-CPD対象）
- 29年度「総合評価・ミス防止研修会」
平成29年8月（予定-CPD対象）
- UAV連絡会議 ~i-construction対応研修~
平成29年9月（予定-CPD対象）
- 技術士試験基礎対策講習会
平成29年11月（予定-CPD対象）
- 安全大会
平成30年2月（予定）

この他に、委員会調査や近年増加傾向にある他団体との合同事業など、技術委員会の携わる事業は多岐に渡っております。

① 安全講習会（講師派遣）

国、県、関係団体より依頼があった場合に、技術委員会メンバーの派遣による講義への対応。

② 道路調査設計ノウハウ集改訂委員会への参画

大学、整備局、NEXCO、建コン協、東測協、東地協、測技協による改訂のための委員会への参画（東測協は測量編を担当している。）

③ 東北インフラマネジメント・プラットフォームへの協力

昨年11月協定を締結した東北インフラマネジメント研究センターからの、依頼に対応する窓口となります。

④ 東北土木技術人材育成協議会への参画

昨年発足した協議会（整備局、建コン、東測協、東建協、建設機械施工協会、日建連）において、協議会内の技術者を育成するため、互いに講師を務め優秀な人材を育み、良質な社会資本の発展に寄与するための協議会。今後、会員企業の皆様にも講師、並びに受講に対して要請がありますので、ご協力をお願いいたします。

⑤ UAV保有状況調査（5月~6月）

会員各社のUAVの保有状況を整備局災害協定に基づく資料として提供すると共に、アンケートを実施し今後の研修会の基礎資料とさせていただきます。

⑥ 労働災害事事故事例データ収集と取纏め、情報開示

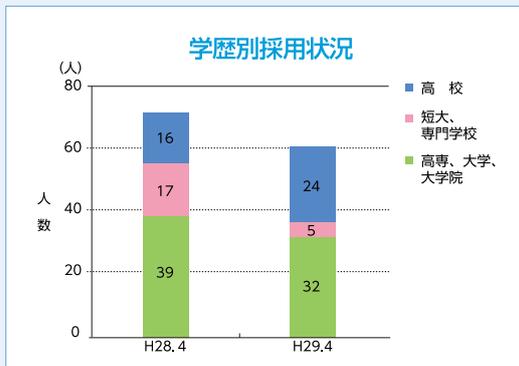
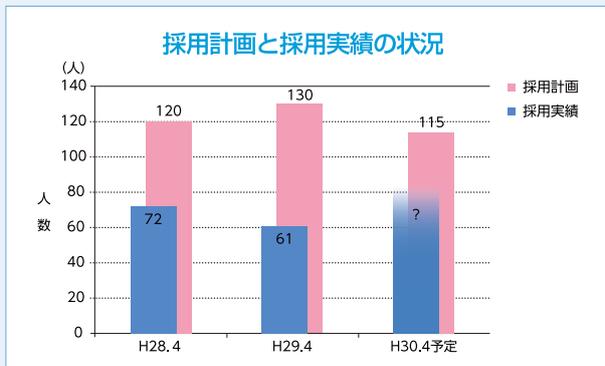
例年通り実施いたします。

今年度も会員の皆様の御協力をお願いいたします。



新卒者採用動向 (会員社アンケート結果より)

4月に行った新卒者採用状況アンケート (回答48社) の結果をとりまとめました。



平成29年4月に採用したのは25社。計画130名に対し、実績61名 (充足率47%) となっており、新卒者採用が難しかった状況が確認できます。また、女性の技術職採用は9名おり、女性の進出が進んでいます。

平成30年4月採用計画は115名となっており、引き続き採用意欲が高いことが窺えます。学歴別採用者数では、計画では高専、大学、大学院が約70%となっていますが、H29.4実績の52%とは差が生じており、希望する人材との乖離が見られます。

編集後記

東測協だよりVol7の作成にあたり、ご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。今号では、最近の就職状況が売り手市場の「採用氷河期」と言われていることを反映してか、採用動向や若手の話題が占めました。東測協だよりでは、今後も会員皆様の必要とする情報をタイムリーにわかりやすい形で提供していければと考えております。今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

企画委員 土門 高大



お問い合わせは

一般社団法人 東北測量設計協会

〒980-0014

宮城県仙台市青葉区本町3丁目6-17

TEL.022-263-0922 FAX.022-263-1744

E-mail info@tospa.org

公式HP <http://tospa.org/>



Access Map



平成29年6月発行